

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200544		
法人名	(株)宇宙SORA		
事業所名	グループホーム ハーモニー みずほ(1階)		
所在地	静岡県静岡市駿河区みずほ2-5-8		
自己評価作成日	平成25年3月1日	評価結果市町村受理日	平成25年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 x.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=229

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡市葵区紺屋町5-8 マルシビル6階		
訪問調査日	平成25年3月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節を肌で感じて頂き、ラジオ体操、外気浴、散歩を日課とし年中行事を大切に全員に挨拶を交わす。
世代の違う人達が大家族となり和らげるホームにする

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本年は事業所の夏祭りに初めて取り組んでいます。職員手書きのポスターを表に張り出し、チラシも刷って地域に配りました。自治会長の尽力と夏祭りなどのイベントが功を奏し、匿名の寄付などにつながり、一気に知名度が上がっていることが視えます。また、内部では管理者の考えが職員に行き渡っていて、それが利用者の暮らしによりよく反映していることを視認しました。“朝出勤したら、利用者一人ひとりに挨拶をしましょう。”業務よりも利用者に関わることを第一としましょう、との方針は、利用者が職員に安心して寄り添う姿や、利用者の性向を熟知していると推量される職員と利用者との言葉のキャッチボールに現れています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念を玄関、フロアに掲示してあり、毎朝の申し送り、全員により唱和して実践につながるようになっている	今年度は地域密着型としての特色を活かし、自治会長との関係が向上し、地域行事への参加も増えています。理念とともに「業務よりも利用者に関わることを第一としましょう」との管理者の方針は、利用者の安寧に繋がっている様子として視認しました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域自治会に入り、お祭り、掃除(草取り)に参加している。ホーム内新聞を毎月発汗(50枚)回覧して頂いている。	町内にもホーム新聞を配り、周知活動に努めています。玄関前に椅子を設置して、地域の人が気軽に休んだり、井戸端会議の場所として役立っています。地域の人から匿名で寄付をもらうなど、普段からの交流の成果がみられています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム内新聞に生活状況を知らせて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催して質疑応答の中から毎月のミーティングを通し報告、意見をサービス向上に活かしている。	今年度は自治会長の参加を得ています。その他にも民生委員、地区の防災委員、包括支援センター職員、家族らが参加しています。地域向けに発行しているホーム新聞には「見やすい」などの意見も寄せられ、また運動会や祭典への招待にもつながっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議に参加して頂き、意見、協力を頂くようにしている。生活保護を受けている利用者も為、定期的に相談、アドバイスを受けている。	市職員が運営推進会議に年1回以上は参加しています。家族意見をもとに、住民参加型デイサービスへの参加や福祉用具の貸与について相談をしており、毎回丁寧な回答を得ていることを書面でも確認しました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束宣言をしている。 毎月のミーティング時、1人々についても質疑応答で話している。	現在、身体拘束に該当する事例はありません。毎月のミーティングで、身体機能低下によるベット周りでの危険防止など利用者ごとの課題を話し合っています。また、スピーチロックやヒヤリハットについて申し送りノートだけでなく、朝礼でもあらためて周知徹底を図っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のケアの中にあると考え(スピーチロック) 毎朝の申し送り時、虐待に当たらないか職員間で意識しケアしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見人制度を利用している利用者があるが、内容について詳しく理解していない職員もあり、全員理解できるよう学事が必要と思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、各御家族に十分説明、読んで納得、理解してから契約。 解約についても同様。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を定期的に行う。 面会時、家族、職員が会話する機会を設けている	管理者が気さくに話しかけられるため、家族からは「話しやすい」と意見も挙がっています。運営推進会議は平日に開催していますが、勤務している家族等からは休日に開催した方が参加しやすいという意見もあります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの場において通達事項、意見を聞く。 職員間に全員に伝わるようにノートを作りサインをするようにしている。	ミーティングやカンファレンスの時間を十分に確保することで、職員間で様々な意見がでたり伝達できるような体制で運営しています。個々の職員から管理者に相談があった場合はノートに集約し、提出者名を隠したうえで職員に結果を伝えています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	体調不良等シフト表により、職員間の変更、有給を利用できるようにしている。自己評価をお願いする事もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎朝、毎月のミーティングで起こりうる事例の教育をしている。身体介護、精神的介護どちらの場面でも分かり易く何度も教育している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域グループホーム事業者会合に参加する同意があり、他のホーム間の連絡を密にしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に行う本人、家族間のアセスメントであらかじめ、特徴をつかみ安心できる体制を整えている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面談を通し、しっかりと話し合いケアに活かせるようにしている。 本人は基より同居している方、子供達にもお聞きする事がある。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と相談、1ヶ月のプランを作りニーズに合う対応をしていく(介護支援専門員⇒全職員)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	様々な家事仕事で利用者が活躍されている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に外出されたり足りない物を購入して頂いたり、そのご本人の食事の見守り、介助もされる。面会時には近況を伝えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	イベント、外出と企画してデパート、外食、その度、案内をさしあげ連絡をとっている。	居室担当を設けています。暮らしぶりなどを定期的に家族に届けていて、様子がわかると好評です。針仕事をしていた人には雑巾縫い、職人だった人にはチラシでゴミ箱をつくってもらうなど、支援しています。喫煙や好みの新聞購読を続けている人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者お1人々の言葉がけ、歌詞カードを作り皆様と一緒に歌う。散歩、体操をしたり支えあうようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて連絡をとり相談にのり対応する		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの生活の意向はつかめてきている。 変わっていく認知症症状にも柔軟に対応している	全職員が居室担当を受持ち、普段の状態を把握しています。ユニットメンバーに溶け込めない利用者のために、同じ宗教を信ずる人を話相手として招くなど、その人それぞれに合わせた把握方法に取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	話をしていく中で得た新しい情報をスタッフ間で共有している。ご家族の面会時にも聞いている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、毎月のミーティングにて情報を共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングにて定期的にモニタリングを行っている。 職員、Drの意見を反映して本人、家族の希望も取り入れている。	日々の記録である「介護記録」と職員のカンファレンスをもとに、各ユニットの計画作成担当者がプラン化しています。「申し送りノート」の確認とミーティングでの口頭確認とで2重に職員間の伝達をおこない、現状に合わせた変更もできています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子で目立った言動等は職員が責任をもち介護記録に記入している。 目立った事は、朝の申し送り時に伝えるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が対応できない通院は付添いを行っている。 外出の希望ができる場合はできるだけ対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭事、清掃などに参加している。 施設通信を回覧版に入れて頂き情報を発信している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医は月2回の往診、24時間対応をしている。親身に話しを聞いて頂き、適切な医療を受ける事ができている。 必要に応じて家族の対応で他病院に受診されている方もいる。	訪問専門の医師と契約していて、月2回の往診があります。また、法人から看護師が週1回は来訪しており、安心の環境にあります。何かあれば協力医が随時往診してくれますが、眼科など専門医の場合は、原則家に付き添いをお願いします。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪看の際に状態を伝えている。 緊急を要する時は、直接、電話をして相談、指示を仰ぎ適切な看護を受けられる支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にできる限りの情報を伝えている。 入院中も面会に行き、看護師から情報を得て他医院に備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化し終末期のあり方については、医師、看護師、スタッフ、家族共に話し合い情報を共有してチーム支援している。	協力医は看取りに関わる意向があり、パートタイマーながら看護師もいて、医療連携が整っています。契約時に方針を理解してもらい、合意の書面も得ていますが、変化に応じて医師、家族と話し合い、進めてゆきたいと考えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は定期的にはやっていないが、対応については目を通し、スタッフ間では口頭で話し合い、看護師のアドバイスを受けている。医師の24時間対応。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練を年2回、避難経路、通報システムの確認を行っている。地域には訓練等、ホーム新聞で呼びかけをしているが参加はない。地域防災、訓練には参加、防災係りの人には推進会議に出席して頂いている。	火災事故を教訓にベランダへの出入り口の窓を全開できるようにしたり、スプリンクラー周辺を整理整頓するなどして避難誘導の体制を整えています。地域の避難訓練にも毎年必ず参加し、利用者が水消火器の体験などをおこなっています。	夜間の災害、避難に備えた体制の確立を期待いたします。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれに合う声かけや対応をしている	アセスメントや家族との話し合いで呼称を統一し、「～ちゃん」の呼び方は原則禁止しています。「娘が信用できない」など利用者の相談から家族に成年後見人制度を紹介し、現在も利用に向けて手続き中に至っている事例もあります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しをよく聞き希望に沿えるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	まずはそれぞれのペースを把握して希望に沿えるように対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい服装で過ごしている。 なじみのある服も補修したりして大切に着れるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ほとんどの方は食事を楽しみにしている。 準備、片付けもできる方は行っている。	男性職員が6名もいますが、慣れない調理を覚え、今では皆上手に作れるようになっています。おしぼりたたみ、茶碗洗いなど利用者の希望に応じてできることを手伝ってもらっています。イベントとして外食も月1回程度おこなっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康記入表に記入しており、摂取量などは分かり易くなっている。 食事形態、量もそれぞれに合わせたものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれに合った方法で支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のリズム、パターンを職員が把握できたか、できる限り、トイレで排泄できるように支援している。	トイレはゆったりとした造りで臭いなどもなく、清潔です。自立の人にも「何かお手伝いすることはありますか」と声を掛けることを奨励していて、トイレの状況把握に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食品、ヨーグルトなどを摂っている。リズムを考え食後、しやすい時間帯を把握している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	健康状態、環境面にも配慮して危険がないようにしている。 拒否される方がいる為、工夫をして職員全員で声かけをしている。	毎日湯をはり、隔日入浴をめやすとしています。苦手な人や二人介助が必要な利用者も週2日は入ってもらうよう、工夫しています。また、毎朝夕の陰洗と清拭は欠かさず、また脱衣所の洗濯機は汚れ物用も備え、清潔保持に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれのペースで生活している。 体調、体力により日中もベッドで休んで頂く事もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	苦情に目を通し理解するようにしている。 変更時には申し送り連絡ノートで通知。 看護師、提携医、薬局に指示を仰ぐ 服用を終わりまで確認、見守り、飲みやすい、工夫をして誤薬のないよう服薬後の確認、サインをする		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	タバコを吸われる人を禁止するだけでなく、スタッフが付添い喫煙したり、その方にあつた過ごし方をして頂いている。 イベント、季節に応じた催し物を行ったり、外出に行き実際に実感して笑顔になれるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外に行きたい人を止める事なく同行、買い物と共に心がけ、イベント(外出)には、家族参加の呼びかけをしている。 陽気により、依り毎日の散歩、外気浴をしている	散歩や外気浴を毎日の日課としています。外出やレクリエーションのためにイベント担当を毎月定めていて、年間計画と企画書により確実な運営がみられます。小さな畑を備え、ニンジンやトマト、豆などが育っていて、今年はジャガイモが好評でした。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失、物取られ妄想などのトラブルの原因をさける為、家族、後見人の承諾のもと小遣いとしてホーム内に個々のノートを作り、保管、使う場合は一緒に買い物に出かける		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙に関しては自由である。 電話等は家族の承諾を得ている人には自由にかけて頂いている。 手紙に関しては書く人は誰もなくて来た手紙等は本人の了解を頂けたものには代読している。本人の手書きで出すよう促している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場所は清潔に明るくスタッフが近くでの見守りをしている。 ボード、壁には共同で作成したものを掲示、季節を理解して頂くように努めている。	食事をするエリアとテレビや談笑を楽しむエリアとが分かれていて、利用者が好みの場所で寛いでいます。起床や食事の時間もその人それぞれの意向に任せているためか、一人ひとりの発語や動きに自由さがあり、職員がタイムリーに反応しており、またそれができる広さもあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、ダイニング、デッキスペースに好きなように座って頂き、体操、言葉の出し方、歌詞カードを活用したり会話を楽しいようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居する時、なじみのものをお持ちくださるようお願いしている。居室内は本人の自由にして頂いている。仏壇、人形、写真等を飾っている。	入居時はなじみのものを持ち込めていたのですが、現在は使われなくなっている様子が感じられます。“午後はお掃除の時間、”として定め、居室内を利用者が職員と一緒に掃除している様子が確認されました。	居室担当によるレイアウトの工夫など、長期化にわたる居室の工夫を期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	現状維持に努めるよう、助言、見守り、環境整備に力を入れるように努めている。出来る事はやって頂く。 必要以上の支援にならないようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200544		
法人名	(株)宇宙SORA		
事業所名	グループホーム ハーモニー みずほ(2階)		
所在地	静岡県静岡市駿河区みずほ2-5-8		
自己評価作成日	平成25年3月1日	評価結果市町村受理日	平成25年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2012_022_kami=true&jiyosyoCd=2294200544-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階
訪問調査日	平成25年3月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節を肌で感じて頂き、ラジオ体操、外気浴、散歩を日課とし年中行事を大切に全員に挨拶を交わす。
世代の違う人達が大家族となり和らげるホームにする

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本年は事業所の夏祭りに初めて取り組んでいます。職員手書きのポスターを表に張り出し、チラシも刷って地域に配りました。自治会長の尽力と夏祭りなどのイベントが功を奏し、匿名の寄付などにつながり、一気に知名度が上がっていることが視えます。また、内部では管理者の考えが職員に行き渡っていて、それが利用者の暮らしによりよく反映していることを視認しました。“朝出勤したら、利用者一人ひとりに挨拶をしましょう。”業務よりも利用者に関わることを第一としましょう、との方針は、利用者が職員に安心して寄り添う姿や、利用者の性向を熟知していると推量される職員と利用者との言葉のキャッチボールに現れています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念を玄関、フロアに掲示しており、毎朝の申し送り、全員により唱和して実践につながるようになっている	今年度は地域密着型としての特色を活かし、自治会長との関係が向上し、地域行事への参加も増えています。理念とともに「業務よりも利用者に関わることを第一としましょう」との管理者の方針は、利用者の安寧に繋がっている様子として視認しました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域自治会に入り、お祭り、掃除(草取り)に参加している。ホーム内新聞を毎月発刊(50枚)回覧して頂いている。	町内にもホーム新聞を配り、周知活動に努めています。玄関前に椅子を設置して、地域の人が気軽に休んだり、井戸端会議の場所として役立っています。地域の人から匿名で寄付をもらうなど、普段からの交流の成果がみられています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム内新聞に生活状況を知らせて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催して質疑応答の中から毎月のミーティングを通し報告、意見をサービス向上に活かしている。	今年度は自治会長の参加を得ています。その他にも民生委員、地区の防災委員、包括支援センター職員、家族らが参加しています。地域向けに発行しているホーム新聞には「見やすい」などの意見も寄せられ、また運動会や祭典への招待にもつながっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議に参加して頂き、意見、協力を頂くようにしている。生活保護を受けている利用者も為、定期的に相談、アドバイスを受けている。	市職員が運営推進会議に年1回以上は参加しています。家族意見をもとに、住民参加型デイサービスへの参加や福祉用具の貸与について相談しており、毎回丁寧な回答を得ていることを書面でも確認しました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束宣言をしている。 毎月のミーティング時、1人々についても質疑応答で話している。	現在、身体拘束に該当する事例はありません。毎月のミーティングで、身体機能低下によるベット周りでの危険防止など利用者ごとの課題を話し合っています。また、スピーチロックやヒヤリハットについて申し送りノートだけでなく、朝礼でもあらためて周知徹底を図っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のケアの中にあると考え(スピーチロック)毎朝の申し送り時、虐待に当たらないか職員間で意識しケアしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見人制度を利用している利用者があるが、内容について詳しく理解していない職員もあり、全員理解できるよう学事が必要と思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、各御家族に十分説明、読んで納得、理解してから契約。 解約についても同様。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を定期的に行う。 面会時、家族、職員が会話する機会を設けている	管理者が気さくに話しかけられるため、家族からは「話しやすい」と意見も挙がっています。運営推進会議は平日に開催していますが、勤務している家族等からは休日に開催した方が参加しやすいという意見もあります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの場において通達事項、意見を聞く。 職員間に全員に伝わるようにノートを作りサインをするようにしている。	ミーティングやカンファレンスの時間を十分に確保することで、職員間で様々な意見がでたり伝達できるような体制で運営しています。個々の職員から管理者に相談があった場合はノートに集約し、提出者名を隠したうえで職員に結果を伝えています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	体調不良等シフト表により、職員間の変更、有給を利用できるようにしている。自己評価をお願いする事もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修、講習会に参加できるように努めている。 働きながら資格がとれる制度を利用している。入社時の社内研修を実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域グループホーム事業者会合に参加する同意があり、他のホーム間の連絡を密にしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	同じ目線に立ち、本人の言葉の傾聴に努める。声かけ、タッチと介護者としての役割をはっきりとした口調でわかりやすく、やさしく伝える。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面談を通し、しっかりと話し合いケアに活かせるようにしている。 本人は基より同居している方、子供達にもお聞きする事がある。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と相談、1ヶ月のプランを作りニーズに合う対応をしていく(介護支援専門員⇒全職員)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎月の生活の中で、できる事は一緒にやる		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、状況報告書を作り、現状をわかり易く伝える。イベント、ホーム新聞、電話等により参加への呼びかけをして本人がより良い生活が送れるようにする。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	イベント、外出と企画してデパート、外食、その度、案内をさしあげ連絡をとっている。	居室担当を設けています。暮らしぶりなどを定期的に家族に届けていて、様子がわかると好評です。針仕事をしていた人には雑巾縫い、職人だった人にはチラシでゴミ箱をつくってもらうなど、支援しています。喫煙や好みの新聞購読を続けている人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者お1人々の言葉がけ、歌詞カードを作り皆様と一緒に歌う。散歩、体操をしたり支えあうようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて連絡をとり相談にのり対応する		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	モニタリングを毎月のミーティングの中に組み入れ入居者から聞いた見たを基に段階的に進めていくよう本人の意見を把握する。	全職員が居室担当を受持ち、普段の状態を把握しています。ユニットメンバーに溶け込めない利用者のために、同じ宗教を信ずる人を話相手として招くなど、その人それぞれに合わせた把握方法に取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前面談、ファイルを常に見るようして、面会者より話しを伺う。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、申し送りにて職員全員が情報、確認できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前の面談、その後はミーティングの時、管理者、CM、スタッフが意見を出し合い、家族への連絡、相談し作成して利用者の望む生活を支える為個別援助計画を作成している。	日々の記録である「介護記録」と職員のカンファレンスをもとに、各ユニットの計画作成担当者がプラン化しています。「申し送りノート」の確認とミーティングでの口頭確認とで2重に職員間の伝達をおこない、現状に合わせた変更もできています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録、介護日誌に変化があった時は管理者、CM、スタッフが話し合いをする。朝、夕の申し送りの際、伝えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎月、身体状況などをチェックして、その人のニーズにあったサービスを考え直している。家族が対応できない通院には対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	イベント時、その都度必要になったものは地域のお店で購入している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医との月2回往診時、本人より希望を伺い一人々には個別支援していき、状況報告をその度、家族へ連絡、連携、他医院への受診必要に応じて同行支援している。	訪問専門の医師と契約していて、月2回の往診があります。また、法人から看護師が週1回は来訪しており、安心の環境にあります。何かあれば協力医が随時往診してくれますが、眼科など専門医の場合は、原則家に付き添いをお願いします。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の変化等ファイルにして看護師に伝え、体調不良、変化には電話で指示を受けて健康管理をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携医の訪問以外の受診、入院等、体調変化を詳細に説明し同行をして口頭で伝えている。退院時にはサマリーをよよく読み不明等、病院、訪看に連絡、指示を仰いでいる		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化し終末期のあり方については、医師、看護師、スタッフ、家族共に話し合い情報を共有してチーム支援している。	協力医は看取りに関わる意向があり、パートタイマーながら看護師もいて、医療連携が整っています。契約時に方針を理解してもらい、合意の書面も得ていますが、変化に応じて医師、家族と話し合い、進めてゆきたいと考えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は定期的にはやっていないが、対応については目を通し、スタッフ間では口頭で話し合い、看護師のアドバイスを受けている。医師の24時間対応。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練を年2回、避難経路、通報システムの確認を行っている。地域には訓練等、ホーム新聞で呼びかけをしているが参加はない。地域防災、訓練には参加、防災係りの人には推進会議に出席して頂いている。	火災事故を教訓にベランダへの出入り口の窓を全開できるようにしたり、スプリンクラー周辺を整理整頓するなどして避難誘導の体制を整えています。地域の避難訓練にも毎年必ず参加し、利用者が水消火器の体験などをおこなっています。	夜間の災害、避難に備えた体制の確立を期待いたします。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人にあった言葉かけをしている また朝、夕、勤務交代時、全員への言葉かけをしています	アセスメントや家族との話し合いで呼称を統一し、「～ちゃん」の呼び方は原則禁止しています。「娘が信用できない」など利用者の相談から家族に成年後見人制度を紹介し、現在も利用に向けて手続き中に至っている事例もあります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	対応がスタッフの視点からではなく十分に傾聴し思いを察することを心がけています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人々に合ったゆっくりとした対応、行動(徘徊)は、その人の意にそうように同行支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の仕度は入居者と共に行い、好みに合う物を決める。起床時の洗濯、整容の支援。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立により野菜の洗い、皮むき、配膳、下膳、おしぼりを丸めたり、お盆拭き、テーブル拭き等、無駄のないようにやっている。	男性職員が6名もいますが、慣れない調理を覚え、今では皆上手に作れるようになってきました。おしぼりたみ、茶碗洗いなど利用者の希望に応じてできることを手伝ってもらっています。イベントとして外食も月1回程度おこなっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量チェック、栄養バランスは管理栄養士に献立を依頼。 摂取方法はその人にあった方法で調理、盛り付け、水分量はゼリーとして摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがい、義歯はその都度外して洗い、夕食後はお預かりして洗浄液につける。 ブラシを使って口腔ケアをします。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用、事前の声かけ誘導、見守り、一人々に合ったパット使用。日中はできる限り、布パンツで過ごす。立位できる限り、誘導声かけで軽減に努める	トイレはゆったりとした造りで臭いなどもなく、清潔です。自立の人にも「何かお手伝いすることはありますか」と声を掛けることを奨励していて、トイレの状況把握に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の冷水、乳製品の提供、水分量、消化の良い食事作りのメニューを取り入れている。先生の指示を受ける事もある		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に沿うように入浴して頂いているが、入浴を嫌がる人もあり、また、身体的困難の方にはスタッフ2名で対応。安全面を考慮してどんなに嫌がる人でも週2回を工夫し色々と施行している。	毎日湯をはり、隔日入浴をめやすとしています。苦手な人や二人介助が必要な利用者也週2日は入ってもらうよう、工夫しています。また、毎朝夕の陰洗と清拭は欠かさず、また脱衣所の洗濯機は汚れ物用も備え、清潔保持に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	申し送り時、夜間帯の睡眠状態に気をつけ、休息の声かけ、車椅子の方はソファに座ったり、臀部の減圧を考慮して、本人の希望に沿うよう就寝時間を決めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	苦情に目を通し理解するようにしている。変更時には申し送り連絡ノートで通知。看護師、提携医、薬局に指示を仰ぐ服用を終わりまで確認、見守り、飲みやすい、工夫をして誤薬のないよう服薬後の確認、サインをする		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	タバコを吸われる人を禁止するだけでなく、スタッフが付添い喫煙したり、その方にあつた過ごし方をして頂いている。イベント、季節に応じた催し物を行ったり、外出に行き実際に実感して笑顔になれるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外に行きたい人を止める事なく同行、買い物と共に心がけ、イベント(外出)には、家族参加の呼びかけをしている。陽気により、依り毎日の散歩、外気浴をしている	散歩や外気浴を毎日の日課としています。外出やレクリエーションのためにイベント担当を毎月定めていて、年間計画と企画書により確実な運営がみられます。小さな畑を備え、ニンジンやトマト、豆などが育っていて、今年はジャガイモが好評でした。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失、物取られ妄想などのトラブルの原因をさける為、家族、後見人の承諾のもと小遣いとしてホーム内に個々のノートを作り、保管、使う場合は一緒に買い物に出かける		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙に関しては自由である。 電話等は家族の承諾を得ている人には自由にかけて頂いている。 手紙に関しては書く人は誰もなく来た手紙等は本人の了解を頂けたものには代読している。本人の手書きで出すよう促している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場所は清潔に明るくスタッフが近くでの見守りをしている。 ボード、壁には共同で作成したものを掲示、季節を理解して頂くように努めている。	食事をするエリアとテレビや談笑を楽しむエリアとが分かれていて、利用者が好みの場所で寛いでいます。起床や食事の時間もその人それぞれの意向に任せているためか、一人ひとりの発語や動きに自由さがあり、職員がタイムリーに反応しており、またそれができる広さもあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、ダイニング、デッキスペースに好きなように座って頂き、体操、言葉の出し方、歌詞カードを活用したり会話を楽しんでいるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居する時、なじみのものをお持ちくださるようお願いしている。居室内は本人の自由にして頂いている。仏壇、人形、写真等を飾っている。	入居時はなじみのものを持ち込めていたのですが、現在は使われなくなっている様子が感じられます。“午後はお掃除の時間、”として定め、居室内を利用者が職員と一緒に掃除している様子が確認されました。	居室担当によるレイアウトの工夫など、長期化にわたる居室の工夫を期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	現状維持に努めるよう、助言、見守り、環境整備に力を入れるように努めている。出来る事はやって頂く。 必要以上の支援にならないようにしている。		